ぶらりらいぶらりぃ

～図書室にはこんな本があります～

No. 26

★ 来館者の方からの質問事項をもとに昭和館図書室の図書を紹介します。

（書名の後の（　）内の数字は請求記号です。）

問1　新聞の大見出しの横書き表記が左からになったのはいつ頃か？

例　館和昭　→　昭和館

ﾝｶﾜｳｮｼ　　ｼｮｳﾜｶﾝ

答　朝日新聞の大見出しが「左横書」になったのは、昭和22年１月１日

読売報知（読売新聞）は昭和21年1月1日です。

（両方とも縮刷版を所蔵しています）

公文書の横書きについての統一見解は昭和 34 年 9 月 8 日

『朝日新聞縮刷版　昭和 34 年 9 月号』(071 A82 1959-9)

問2　仮名づかいの変遷が知りたい。

答　**『「ハヒフヘホ」は「ワイウエオ」ではない』**(C811 035)

『仮名遣改定論議要略　第1集』(C811 Mo31)

『新制当用漢字現代かなづかい要覧』(811 Mo31)　などをご覧ください。

検索のしかた

図書・雑誌 → 図書 → ことば → **仮名**

〃　　**かなづかい**

☆**『ことばの昭和史』**(開架図書　810 033)に問1・2について載っています。

図書室には、書棚に並んでいる図書以外にもたくさんあります。

検索端末を使って、読みたい本を探してみてください。

操作方法等がわからない場合は、カウンター職員までお気軽に…。

・・・もう一冊！！！・・・　２４

前回に引き続き、神田古書店街の話を書いてみます。

筆者が二十才だった昭和４３年頃の神田は、まだ店舗のビル化が進んでいなくて、古臭い木造店舗がまだ多い状態でした。小川町のブックブラザーは、2 軒並んだ本屋で、２軒の主人は本当に兄弟だったようです。ブックブラザーの竹内書店は、雑誌が多く、良く行きました。立て付けの悪い引き戸をガタガタと開けて入ったのを覚えています。今でも昔のままに洋雑誌などは大量に有りますが、戦時中空母瑞鶴に乗っていた先代主人は大分前に亡くなりました。

駿河台下には、文庫本専門の川村書店があり、特に壁際の一冊２０円均一の書棚からはずいぶんたくさん買いました、とにかく安かった。坂下の三省堂は古臭い薄暗い建物でしたが、それなりの雰囲気がありました。

靖国通りを登って、書泉、金子書店、島崎書店の三軒（今は無し）が、今の書泉グランデの場所です。随分変わったものですが、少し行った奥野書店の辺りは、昔のままの雰囲気が残っています。そして、神田のヌシ、一誠堂は昔のまま、さすが老舗の風格です。高校生や大学生では敷居が高く感じられるほどの店で、遠慮しながら（？）本の背を見たものです。

神保町の四つ角は空き地になっていて、毎年ここで古本祭りが行なわれました。今の第一勧業銀行の立っている所です。

更に行くと、映画関係の矢口書店、軍事関係の文華堂、国文に強い北沢書店などがあります。文華堂には随分通いました。日本一無愛想だった先代主人も亡くなりましたが、２０年くらい通っているうちに、帳場でお茶を出してくれる様になりました。面白い古本の話を聞かせてもらったのを覚えています。

文華堂の筋向いに、長門屋書房がありました。ここは古雑誌の山に屋根を乗せたような本屋で、一日中しゃがみこんで雑誌をひっくり返したりしました。（文華堂、長門屋は、場所が変わりました）

８０軒近い神田の古本屋（実際見るのは２０軒くらいですが）を回ると、くたくたですが、「もう一冊」を探して毎日の様に歩き回っていました。（午睡）

－・－

－図書室から－

２１世紀、最初の夏。今年は、猛暑、台風、そしていろいろな意味をもった夏でした。
皆さんはどのように過ごされましたか。

＊資料の返却にご注意ください。

新聞・雑誌・開架図書（室内に出ているもの）をご利用になった時は元の場所へ、また、場所がわからなくなった時は返本台へお返しください。不明な点はカウンターまでお問い合わせください。

ぶらりらいぶらりぃ　～図書室にはこんな本があります～　Ｎｏ．２６
２００１年8月２５日　　発行
編集・発行　　昭和館　図書室
〒102-0074　東京都千代田区九段南１－６－１